

図書館－がん相談支援センター 連携プロジェクトについて

国立がん研究センターがん対策情報センター
八巻 知香子

がんは2人1人、
でも、なっちはじめて・・・

- ・「頭は真っ白」になった
- ・「がん」はもう治らない？
- ・病院のペースで治療が進んでいく・・・本当にこれでいいの？
- ・これを飲めばがんが消えた！ 本当？



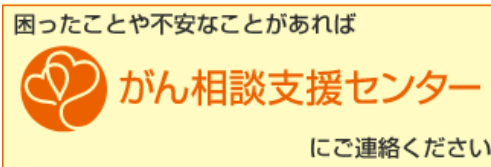
がんについて正しい情報が必要とされている

情報がまだ届いていない、困っている人がいる

がん相談支援センターとは・・・

全国に設置された、がんの相談窓口

「がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」
「地域がん診療病院」に設置されている



2006年2月に誕生！

がん診療連携拠点病院

全国どこでも質の高いがん医療が受けられるように
厚生労働大臣が指定した施設。

第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）（概要）

第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

- ①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

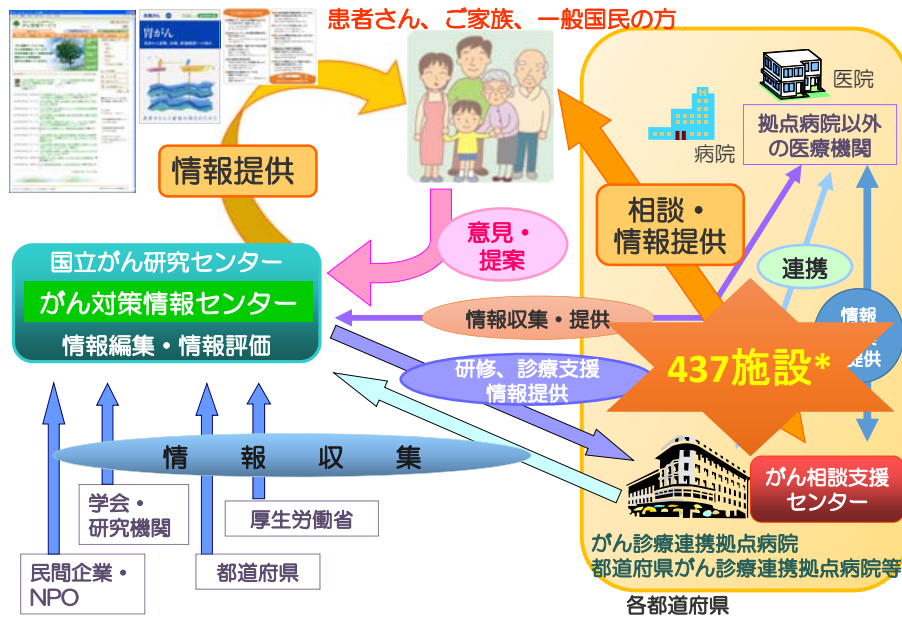
第2 分野別施策

1. がん予防	2. がん医療の充実	3. がんとの共生
(1)がんの1次予防 (2)がんの早期発見、がん検診 (2次予防)	(1)がんゲノム医療 (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法 (3)チーム医療 (4)がんのリハビリテーション (5)支持療法 (6)希少がん、難治性がん (それぞれのがんの特性に応じた対策) (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん (※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人 (8)病理診断 (9)がん登録 (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組	(1)がんと診断された時からの緩和ケア (2)相談支援、情報連携 (3)社会連携に基づいたがん対策・がん患者支援 (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題 (5)ライフステージに応じたがん対策
4. これらを支える基盤の整備		
(1)がん研究 (2)人材育成 (3)がん教育、普及啓発		

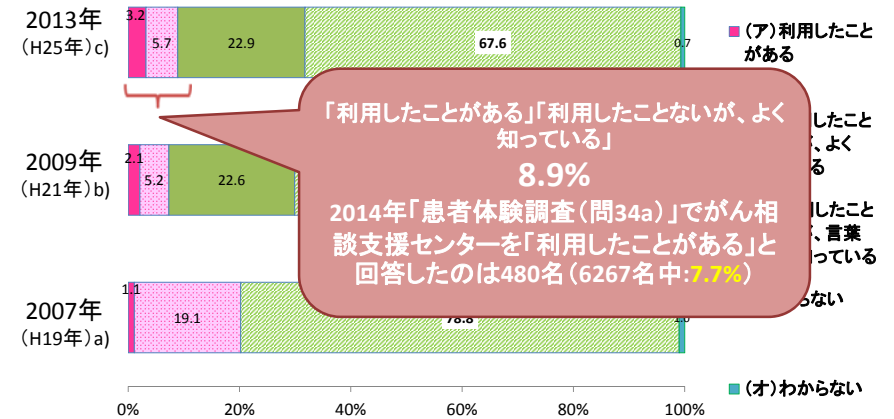
第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 関係者等の連携協力の更なる強化 | 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化 |
| 2. 都道府県による計画の策定 | 6. 目標の達成状況の把握 |
| 3. がん患者を含めた国民の努力 | 7. 基本計画の見直し |
| 4. 患者団体等との協力 | |

現在進められている日本のがん情報提供ネットワーク



一般市民の「相談支援センター」の認知度 経年推移



a) 全国20歳以上の者、層化2段無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。3000人抽出、有効回収数1,767人(58.9%)
 b) 全国20歳以上の者、層化2段無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。3000人抽出、有効回収数1,935人(64.5%)
 c) 全国20歳以上の者、層化2段副次(3段)無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。4000人抽出、有効回収数1,233人(30.8%)
 注) H19年世論調査では、(イ)「利用したことがないが、知っている」となっている。また(ウ)「利用したことがないが、よく知らない」の選択肢はない
 出典 a)「がん対策に関する世論調査(平成19年9月調査)」: 内閣府大臣官房政府広報室 <http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-gantaisaku/index.html>
 b)「がん対策に関する世論調査(平成21年9月調査)」: 内閣府大臣官房政府広報室 <http://www8.cao.go.jp/survey/h21/h21-gantaisaku/index.html>

先行プロジェクト開始にあたって

- がんは日本人の死因の第1位であり、2人に1人は生涯のうちにがんにかかる。がん対策基本計画の全体目標である「がんになっても安心できる社会」は、元気なときから『がん』や『死』を身近に感じ、それへの心構えを生活の中にもつ必要がある
- がんに関する情報を、「日常の生活の場面で」提供していくことは急務であり、政策的にも取り組む必要性が指摘されているが、まだまだ不十分であり、特に高齢者や視覚障害者など情報弱者への情報提供は特に課題が多い
- 高齢者や視覚障害者の生活を支える福祉サービスの窓口は、「がん」に対する情報提供手段を持ち合わせていないことが多く、福祉側からのがん情報のサポートも不十分
- 専門分化しがちな各専門機関が互いに協力しながらサポートする体制なしには、一番困っている人たちに必要な情報は届かない

「がん」の情報を、高齢者や視覚障害者に生活の場の中で届けていく体制づくりが必要

医療・行政・公共図書館との連携の魅力

医療機関からみると・・・

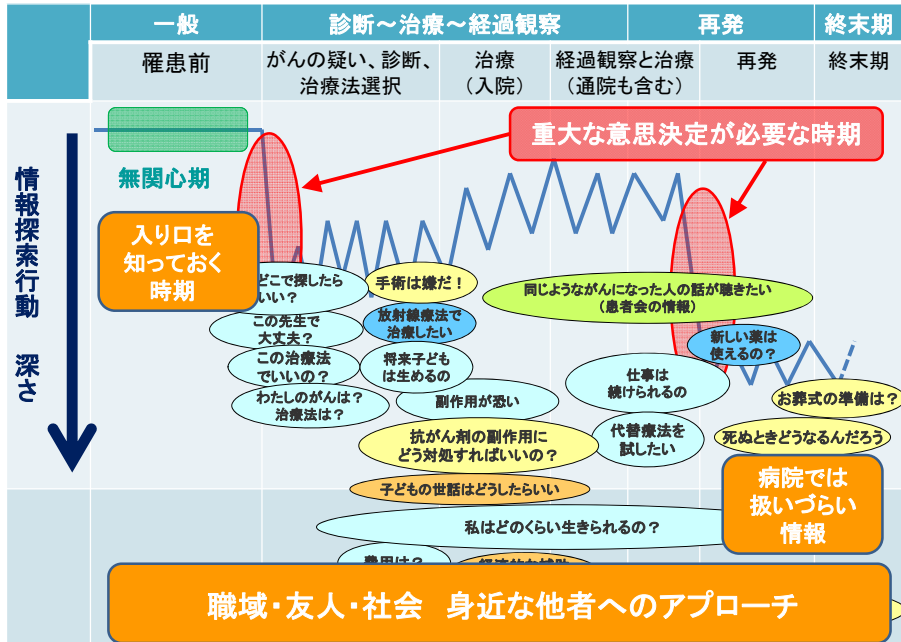
- 元気な人が生活の中で来る場所
 ⇔ 病気になって初めて訪れる病院
- 小さな町村にも
 ⇔ 基準を満たすがん診療連携拠点病院は偏在
- 社会教育施設としての様々な可能性
 ⇔ 医療機関でできることの限界

図書館からも・・・

- 扱いづらい医療情報についての方針を整理する場
- レファレンスで答えられない医療や病気についてのリファラー先の確保

ぜひ、その地域や担当者の感覚にあう、無理なく楽しめるアイデアと仲間のつながりを持ち帰ってください。

人の医療情報に対する関心の程度と情報探索行動



国立がん研究センターの包括的連携に関する協定書の締結を通しての企業連携等によるがん情報の普及啓発ルートの拡大

対象者	一般	診断～治療～経過観察		再発	終末期	
	罹患前	がんの疑い、診断、治療法選択	治療 (入院)	経過観察と治療 (通院も含む)	再発	終末期
患者本人・家族		患者必携 がんになったら手にとるガイド 別冊「わたしの療養手帳」	知れば安心 がん情報 アララ	各種がんシリーズ		
職域・友人・社会		社会とがんシリーズ		NCCIによる普及啓発先として「弱い領域」		

がんの情報普及啓発が難しいところを連携によりカバー

■ 企業との連携

- がんの情報普及に関心をもつ企業との協働で、がん相談支援センターのチラシ、がんブックの作成・配布、地域相談支援フォーラムへの後援等によるがん情報普及啓発を実施 (2011年～)

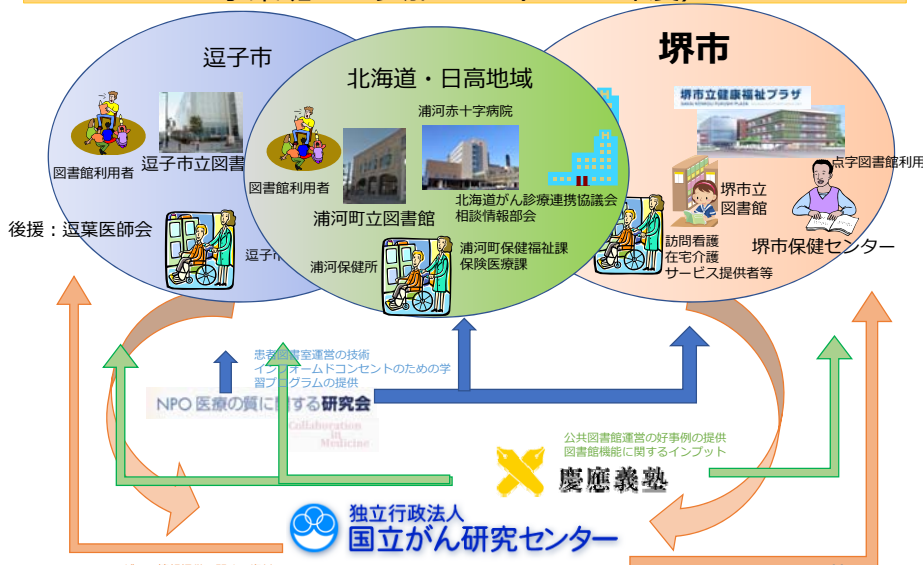
■ 点字図書館との連携

- 堺市立健康福祉プラザ 視覚・聴覚障害者センターと協働で、視覚障害者をはじめとする障害のある人に向けた情報を翻訳、普及させる (2012年～)

■ 公共図書館との連携

- 公共図書館1981館へ「がんの冊子 39種類」の配布 (2009年)
- 文科研 (代表者: 田村→池谷)、国ががん発費 (同: 高山) による図書館と医療機関の連携に関する検討 (2012年～)
- JSTネットワーク事業によるがん情報普及のための医療・福祉・図書館の連携プロジェクト (2014年～)

国立がん研究センター「継続的なワークショップ運営による情報弱者向けがん情報ツールの作成と普及」事業班への参加から (H26-28年度)



企画さえあればどんな規模でも比較的進めやすい

～講演会の共同開催～

神奈川県返子市

胃がんとの遭遇 ～まさか私が！～

2014年12月12日(金)

- ・市立図書館
- ・拠点病院(協議会)
- ・市の検診担当
- @図書館併設の市民交流センター

大阪府堺市

がん情報をもっと身近に ～図書館と医療が繋がるとき！～

12月7日(日) 13:00～15:00

- ・点字図書館
- ・市立図書館
- ・拠点病院
- ・市の検診担当
- @健康福祉プラザのフェスティバル

北海道浦河町

もっと知ってほしい! がんのこと - 知って、備えて、安心へ -

日時: 2015年11月13日(金) 14:00～16:00

- ・町立図書館
- ・拠点病院(協議会)
- ・町内医療機関
- ・町の検診担当
- @図書館併設の町民文化会館

・場所、講師が確保できれば開催可
 ・共催すれば個々の予算を持ち寄って有効に使える (会場も無料で使いやすい)
 ・いつもと違うところからも集客できれば互いにとってメリット

患者会と図書館・図書コーナーの コラボレーション@堺



堺市が支援し、堺市立総合医療センターを拠点とするがん患者会「よりそい」の集まりを、堺市立健康福祉プラザ内の情報コーナー「ひといき」で定期的に実施

「ひといき」には、堺市立西図書館からの団体貸し出しの書籍が配架されている

がん患者サロン案内



当プロジェクト以外でも
和歌山県立医大
+和歌山県立図書館
+NPO法人「わ」

サロン開催場所には
県立図書館も

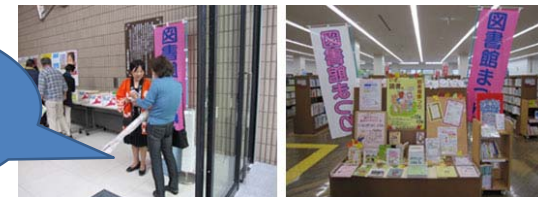
各地のがん相談支援センター & 図書館連携PRイベント例

飯塚市立図書館まつり (2016年10月29日)
福岡県がん診療連携協議会 地域連携・情報専門部会
相談支援ワーキンググループ 筑豊ブロックとして参加



地区の図書館との連携会議『がん情報普及の会』を定期的で開催。飯塚市立図書館まつりで相談ブースを設け、一日楽しく広報に努めることができました。

古賀市立図書館まつり (2016年10月28日)
福岡東医療センター がん相談支援センターが参加



ブックサイクルが行われており、掘り出し物を探しに多くの方が来館。お声掛けしながらがん相談支援センターの案内入りポケットティッシュを配布。「家族がんで…」などのお話も伺いました。

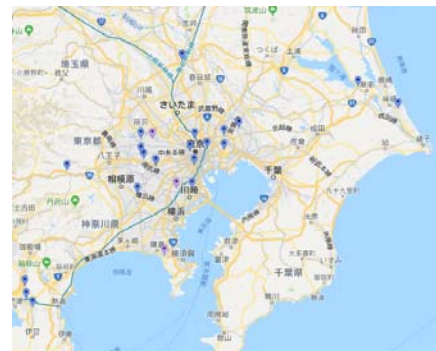


国立がん研究センターは、皆さまからのご寄付で全国の図書館に信頼できるがんの冊子をお届けするキャンペーンを行っています。ぜひご協力ください。

国立がん研究センターがん情報サービス ganjoho.jp

がん情報ギフトプロジェクト

国民の皆様からの寄付で、がん情報を身近な図書館へ



本プロジェクトをがん相談支援センターの周知や地域での情報提供のための連携一つのきっかけとしてご活用ください。

1都1道1府31県の計126図書館に寄贈(2019年2月時点)
年度内にさらに30箇所寄贈予定

届けるを贈る 届けるを支える ご支援の流れ



都道府県立図書館等と連携し受入れ状況の整った地域から

「自分が役立ってよかった」という気持ちを次の方へ...

という輪を広げたい

